

第一六二

保存期限
決裁指定
決行指定

甲寅

陸軍

政務次官 回附 決裁 前後連帶
參與官 課名

附錄
決行(決裁)後
回覽 課名

陸軍航空本部

九 九 式 三 十 五 發 彈 假 制 式 制 定 二 關 ス ル 件

政務
秘書
文書
參與官
書記官
審判書記
審判書

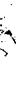
大
臣

次官

副官

高級

計發監
官務局
房御用
主官係
計

本部 長	
總務 部長	
主務 部長	
第 一 課 長	
主務 課長	
副 官	
主務 部員	

航本發售三十六號

局長
受領
昭和
年
月
日
長
長
長

提
 昭
 年
 月
 目

大正
受領
昭
年
馬
庫
法後
行
局
課

官房
了結
昭和
年

(裁
寛
封

決 案

首題兵器別紙兵器圖ノ通假制式トシテ制定相成度

追而本兵器ハ普通兵器ト致シ度

右決裁ヲ請フ

右決裁後左案決行

普

通牒

省副官ヨリ別紙配賦表ノ簡所へ

首題ノ別紙兵器圖ノ通假制式兵器トシテ制定セラレシニ付該關係

圖書目錄ノ通送付ス

追而本兵器ハ普通兵器ト承知相成度

陸軍第四一七七號

昭和五年六月十九日

附屬品送付済

昭和五年八月一日

九九式三十疋爆彈審査經過ノ概要

一、昭和十一年七月三日航秘第七九四號ヲ以テ航空本部ヨリ技術本部ニ對シ研究ヲ要望セリ
其ノ主要條件左記ノ如シ

- (1) 飛行機破壊ノ爲破片威力最モ良好ナル爆彈ヲ得ルニアリ
- (2) 携行方法及投下方法ハ差向キ規制五〇疋爆彈ニ準スルモ墜吊用トシテモ可能ナル如クス

- (8) 三〇疋ヲ標準トス

- (4) 威力半徑概ネ三〇米ヲ基準トス

而シテ技術本部ニ於テハ上記目的ノ基礎研究ノ爲左記六種ノ彈丸ヲ試作セリ

彈種	型式	炸藥率%
第一號	銀層式	一〇

陸軍

第 二 號	第 三 號	第 四 號	第 五 號	第 六 號
鐵 層 式	鋼 片 入 セ メ ン ト 式			
一 五	二 〇	五	一 〇	一 五

昭和十一年八月一日官制改正ニ伴ヒ本爆彈ノ研究ハ其ノ儘陸軍航空技術研究所ニ之ヲ引繼クコトナリタリ

而シテ第一回竝ニ第二回試験ノ結果鋼片入セメント彈ヲ可トスルヤ式ハ鐵層式ニ依ルヤハ爾後ノ研究ヲ俟ツ事トナリタルヲ以テ更ニ研究ヲ續行シ次ノ六種ヲ試作セリ

彈 種	構 造 ノ 概 要
「マ一」ノ一號	彈量五十匁ニシテ彈體ノ圓圍ヲ二枚ノ薄板ニテ作り其ノ間ニ徑十五耗ノ棒鋼ヲ所望破片ノ大サヲ二十瓦ナラシムル如ク切込ヲ作りタルモノヲ

三、各試験ノ場合ニ於ケル判決別紙ノ如シ

昭和十三年三月試験ノ結果「マ二」最モ成績良好ナリシモ製作上
 複雑ニシテ大量生産ニ適セザリシト、引拔鋼管ヲ利用セルモノ
 リテモ炸薬ト彈肉トヲ調和セシムル時ハ爆壓破片共ニ良好ナルモ
 ノヲ得ヘシトノ見解ノ下ニ彈肉ヲ種々ニ變セル五十疋三種三十疋
 四種ヲ試作シ昭和十四年一月試験ヲ實施セル結果概ネ所期ノ機能
 ヲ有スル三十疋爆彈ヲ得タルヲ以テ審査ヲ終了セリ

	装入シ内部ニ炸薬ヲ装ス
「マ一」ノ二號	構造「マ一」ノ一號ニ同様ナルモ棒鋼ノ切込ヲ
「マ二」ノ一號	變ヘタルモノナリ
「マ二」ノ二號	彈量三十疋ニシテ鋼ノ角材ヲ炸薬室ノ圓圍ニ卷 キタルモノニシテ一號、二號ノ差ハ角材ノ邊ノ 大サニ少量ノ差アリ
「マ三」	彈量三十疋ニシテ彈体ヲ薄板ニテ造リ炸薬量ヲ 可及的増大ス

陸軍

別紙

試験年月日		自昭和十一年十一月十九日 至昭和十一年十二月廿一日
試験記事	昭一三、一、一五 航技報第二二六號 對飛行機破片爆 彈第一回試験記 事	昭一三、三、三 航技報第二四四號 對飛行機破片爆 彈第二回試験記 事
判 決	一、銀層式トナス場合ハ炸藥率一五%内外鋼片入セメ ントトスルトキハ一〇%内外ヲ可トス 二、銀層式ハ破片重量一〇瓦以上五〇瓦以下ノモノ多 數ヲ生シ鋼片入セメント爆彈ハ構造上當然ノ結果 トシテ鋼片タル三〇瓦ノミ壓倒的ニ多シ 三、本爆彈ノ用途上銀層式ニ依ルベキヤ鋼片入セメン トヲ可トスルヤハ尙爾後ノ研究ニ俟タントス	一、試験對飛行機破片爆彈六種類ノ金屬飛行機ニ對ス ル破片痕ハ距離一〇米乃至三〇米ニ於テ制式彈ニ 比シ著シク大ニシテ本彈ノ目的ニ對シ適當ナリト 認ム 二、供試彈中三〇瓦銀層彈（一號、二號、三號）ノ破 痕ハ三十瓦鋼片入セメント彈（四號、五號）ニ比 シ破孔大ナリ依テ單ニ此ノ見地ノミヨリスルトキ ハ銀層彈形式ヲ有利トスルガ如キモ一方鋼片入セ メント彈形式ハ爆壓威力ノ増大及破片散飛方向ノ 調整可能ナル望アルヲ以テ尙此ノ後ノ試験ニ依リ 形式ヲ決定スルノ要アリ

自昭和十三年三月十八日 至昭和十三年三月二十日	昭一三 六二五 航技報第五一八號	特殊爆彈試驗記事 一、「マ一」ハ構造不適當ニシテ破片過大トナリ實用ニ適セザルモノト認ム 二、「マ二」ハ破片効力大ニシテ實用ニ適スルモ細部ノ構造ニ關シ改修ノ要アルモノト認ム 三、「マ三」ハ爆破効力大ナルモ破片効力ニ乏シク實用ニ適セザルモノト認ム
自昭和十四年一月十日 至昭和十四年一月十二日	昭一四 三三〇 航技報第六三七號	特殊爆彈第四回試驗記事 一、試製三十疋爆彈ハ鐵層式ノモノニ比シ爆壓効力強大ニシテ破片効力ニ大差ナク且製作容易ナルヲ以テ三十疋級ノ對飛行機爆彈トシテ採用スルヲ適當ト認ム 二、試製三十疋爆彈四種中爆壓効力ト破片効力トノ調和最モ良好ナル第四號彈ヲ採用スルヲ可トス尙本彈ハ人屬殺傷効力ニ於テモ九二式十五疋爆彈ニ優リ九四式五十疋爆彈ニ匹適スルヲ以テ人屬殺傷用爆彈トシテモ使用シ得

九九式三十斤爆彈概説

第一 目的及用途

一、本爆彈ハ航空機ヨリ投下シ主トシテ敵飛行場ニ暴露セル航空機ノ破壊ニ使用スルモノナルモ其ノ他輕易ナル構築物ノ破壊及人馬殺傷用トシテモ使用シ得

第二 構造及機能

一、構造

一、本彈ノ外形ハ圓樽型ニシテ彈丸炸藥、傳火藥筒、座環及信管ヨリ成ル

二、彈丸ハ彈頭、彈体、彈尾及翼ヨリ成リ其ノ細部ハ次ノ如シ

彈頭ハ蛋形碗狀ニシテ信管小ねち二箇及彈頭小ねちヲ有シ内部ニ炸藥ヲ裝入ス

彈体ハ銅管若クハ銅板ヲ圓樽形トナシ一母線上ニ於テ熔接シタ

ルモノニシテ内部ニ炸藥ヲ裝入ス

彈尾ハ鋼製圓錐形ニシテ体後端ニ熔接ス

翼ハ二耗ノ銅板製ニシテ四枚ノ長方翼ヲ圓台形ノ彈尾ニ綴着シ翼ノ端末ハ四箇ノ支板ヲ以テ相互ニ連絡シ取扱中ニ於ケル翼ノ變形ヲ防止ス

炸藥ハ第一乃至第三炸藥、炸藥筒、座板及座環ヨリ成リ其ノ藥種ハ孰レモ被包熔融二號淡黃藥ニシテ其ノ全量一一粒〇八〇ナリ

傳火藥筒ハ壓搾黃色藥（五六瓦）ニシテ第一炸藥ノ内部ニ裝ス座環ハ傳火藥筒ト信管トノ間ニ裝入シ信管裝着ノ際信管筒尾ニ依ル傳火藥筒ヘノ加壓ヲ防止シ又信管ト傳火藥トノ間隙ヲ密塞ス

信管ハ九三式投下二筋信管及十二年式投下彈底信管トシ前者ハ彈頭ニ後者ハ彈底ニ裝ス

日本彈ノ諸元次ノ如シ

空 彈 量	一七貳〇九〇瓦
炸 藥 量	一一貳〇八〇瓦
全 備 彈 量	二九貳六〇〇瓦
炸 藥 收 容 率	二五・二%

三 機 能

本彈ハ彈頭信管ニ依リテ瞬發及短延期ノ二作用ヲ營マシメ所要ニ應ジ孰レニモ切換ヘ使用シ得ルモノナリ

第三 效 力

- 一、本彈ノ效力ハ九四式五十貳爆彈ニ對シ爆風壓ニ依ル破壊力ハ稍ク劣ルモ破片ニ依ル破壊效力及人馬殺傷效力ハ匹敵ス
- 二、九三式双輕爆彈機程度ノ飛行機ニ對シ胴体ヲ變形セシムル程度ニ破壊スル爲ノ威力半径ハ約十三米ニシテ徹底的破壊ヲナス爲ノ威力半径ハ約六・五米ナリ

航空兵器細目名稱表（航空彈藥）

陸軍

九九式三十疋爆彈

（第一種）

彈	彈	十二 年式 投下 彈	九三 式投 下二 傷信 管	座	傳 火 藥 筒	炸藥			彈	區 分 名 稱	數 量	細部ノ名稱數量及摘要
						第一炸藥	第二炸藥	第三炸藥				
彈底信管	彈頭信管					二號	淡黃藥		丸		一	彈頭一、 彈頭信管小ねち 二、 彈尾一、 翼一、 支板一、 底板一、 座環一、 被包熔融若ク ハ直壞熔融
												信管ヲ裝セザル場合ニ使用ス

12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

アジア歴史資料センター

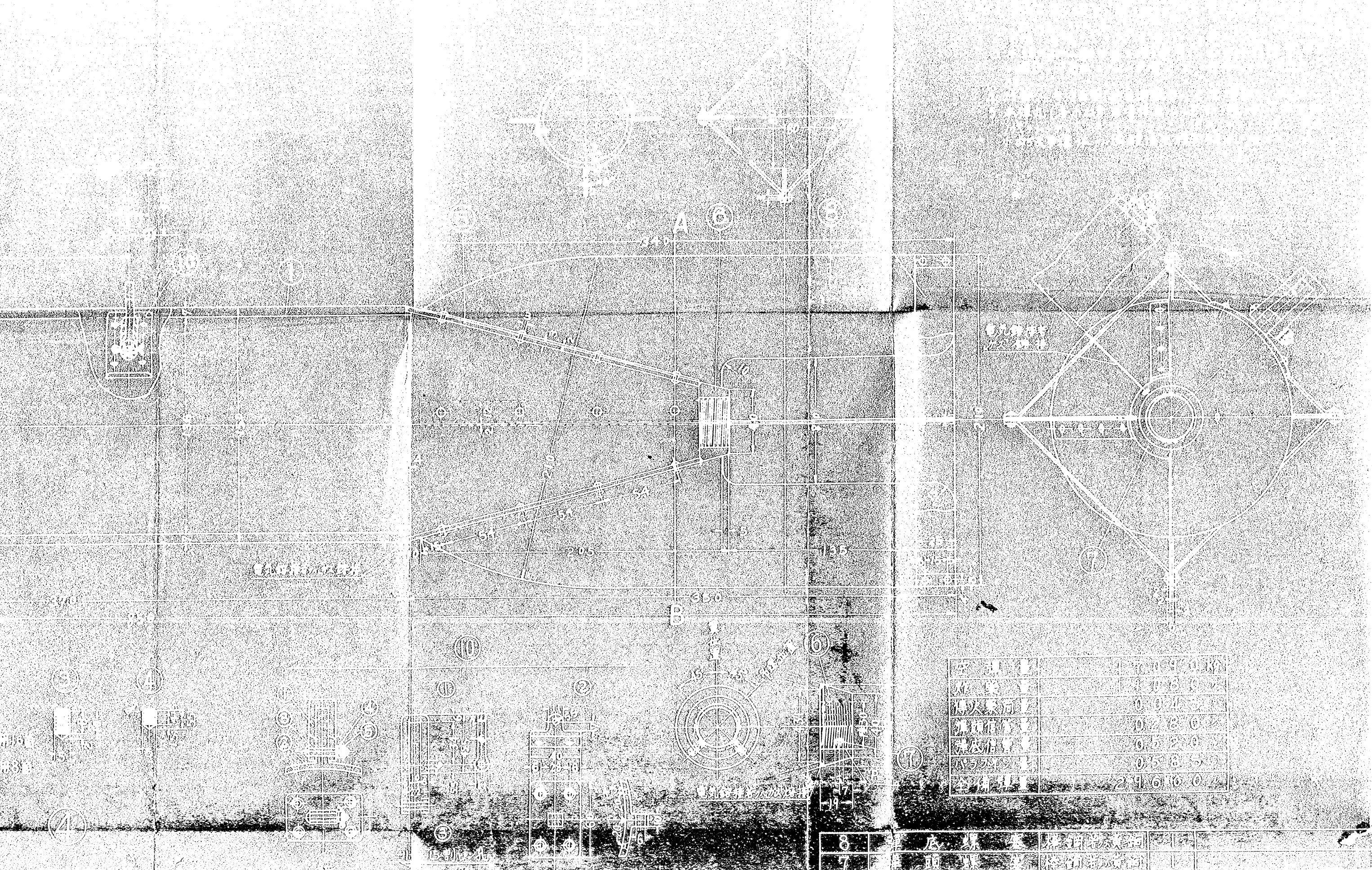
備考	第一龍行集團	一	幕僚 兵器一龍行團	第十四師團
	近衛師團		戰隊 教育隊	第十六
	第一			第十九
	第二			第二十
	第三			
	第四			
	第五			
	第六			
	第七			
	第八			
	第九			
	第十			
第十一				
第十二				

九九式三十挺爆彈細目名稱表				配賦表			
廳名	内	数	廳名	数	配	日	注
官房	一 軍事一課務	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
軍務局	一 兵務一課備 陸軍一	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
兵務局	一 兵務一課備 陸軍一	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
整備局	一 戰術一課政 資源	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
兵器局	一 兵器二課校一	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
參謀本部	一 本部二大學校一	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
教育總監部	一 本部一防校一陸校一士校一	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
航空總監部	一 本部一校二明校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
陸軍航空本部	一 本部二校二校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
陸軍航空本廠	一 本部二校二校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
陸軍技術本部	一 本部二校二校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
關東軍	一 本部二校二校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日
台灣軍	一 本部二校二校二校二	一	陸軍本部	一	一	五	昭和五年四月五日

備 考	第一飛行集團	二八	幕僚兵營一飛行團一	第十四師團	一
	近衛師團	一	戰隊八教育隊八	第十七	一
	第一	一		第十九	一
	第二	二		第二十	一
	第三	二			
	第四	一			
	第五	一			
	第六	一			
	第七	一			
	第八	一			
	第九	一			
	第十	一			
	第十一	一			
	第十二	一			

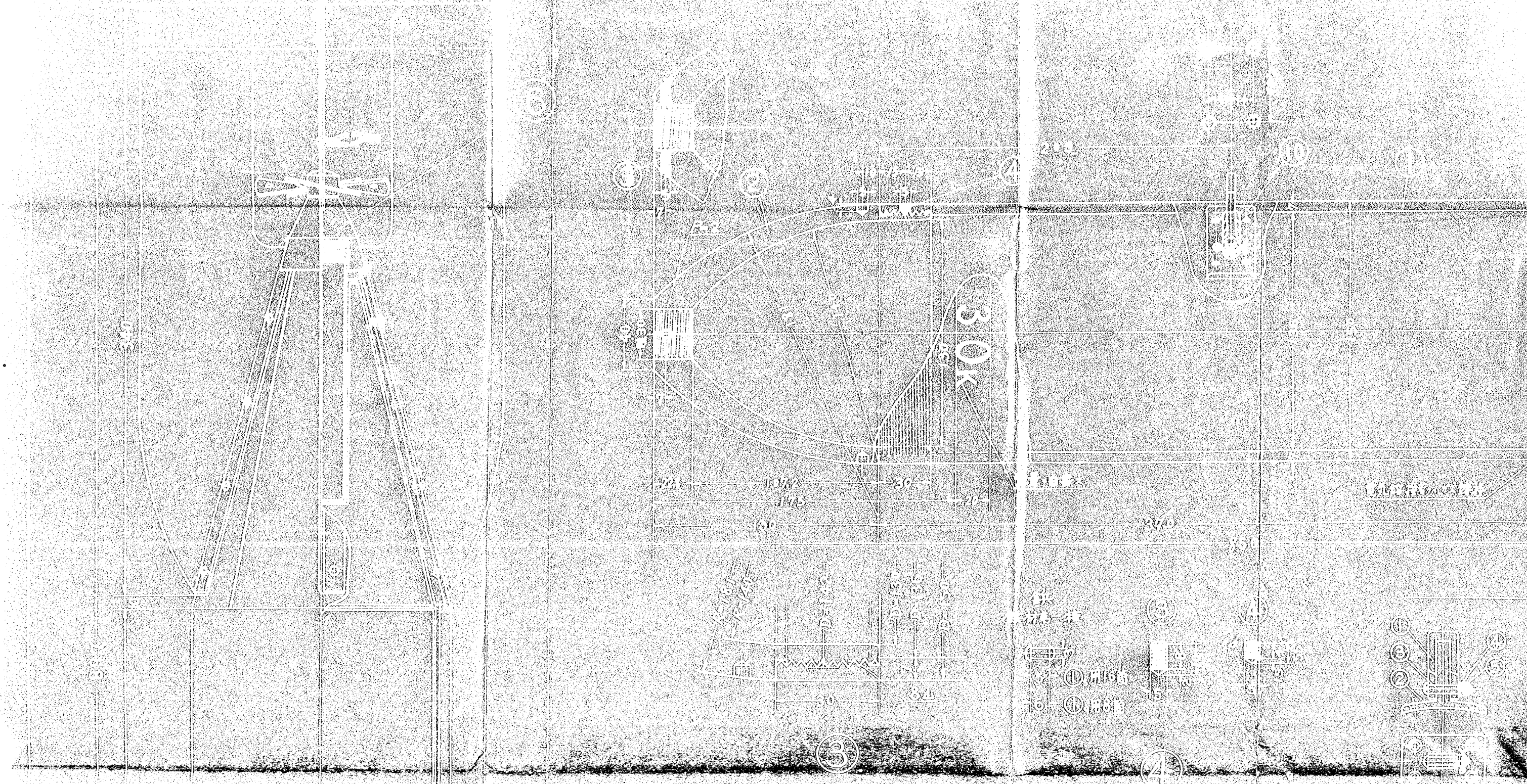
分割撮影ターゲット

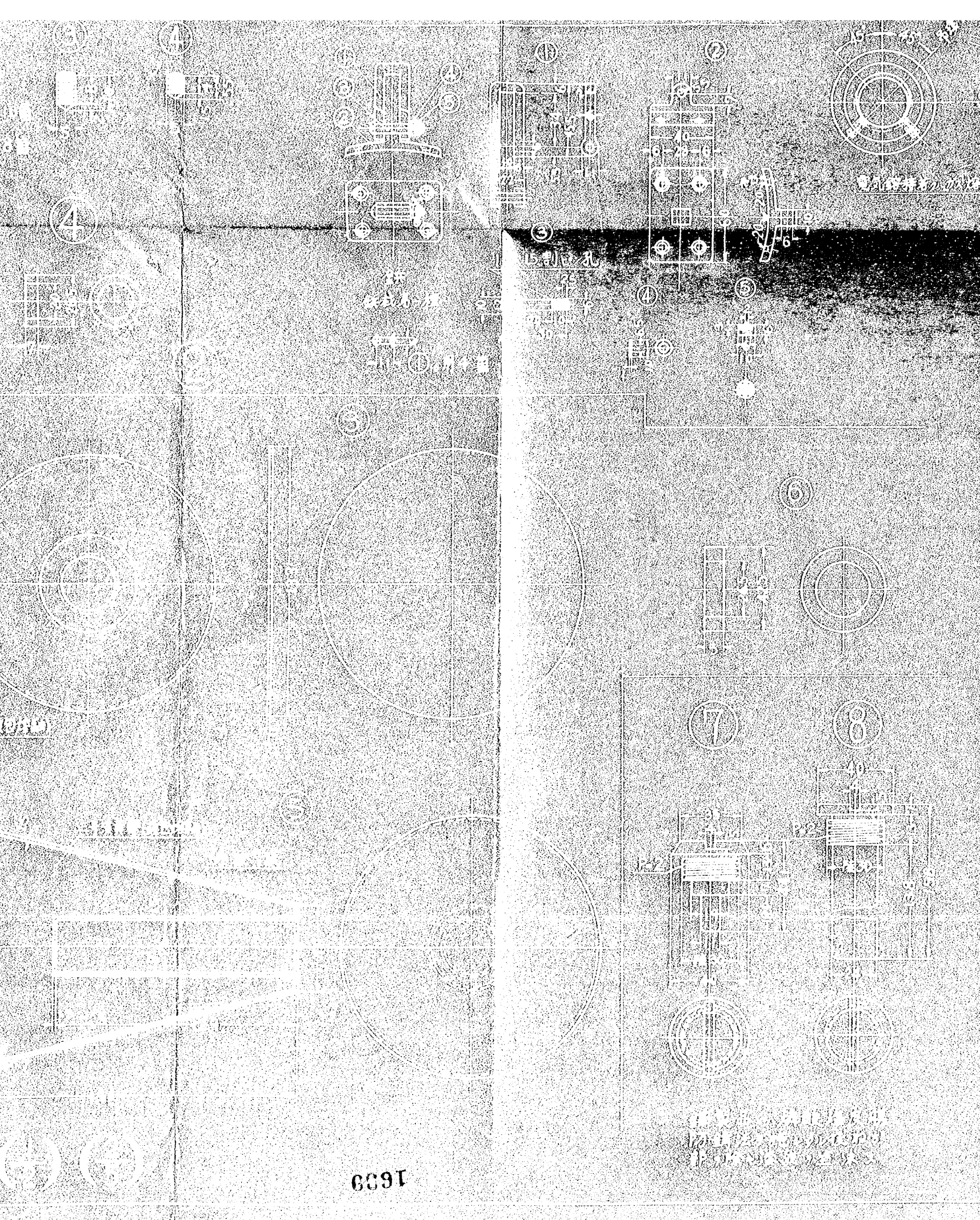
分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため				
上記のとおり分割撮影したことを 証明する					
5 年 12 月 16 日					
主務者又は					
撮影立会者 加部東 保夫 (印)					



東 山 口	1 0 0 0 0 0
東 山 口	2 0 0 0 0 0
東 山 口	0 0 0 0 0 0
東 山 口	0 0 0 0 0 0
東 山 口	0 0 0 0 0 0
東 山 口	0 0 0 0 0 0
東 山 口	2 0 0 0 0 0

8	東 山 口	東 山 口	東 山 口
7	東 山 口	東 山 口	東 山 口
6	東 山 口	東 山 口	東 山 口





全備重量	29.610 0
弾薬重量	1.020 0
弾丸重量	0.170 0
弾丸速度	0.260 0
弾丸威力	0.520 0
弾丸威力	0.580 0

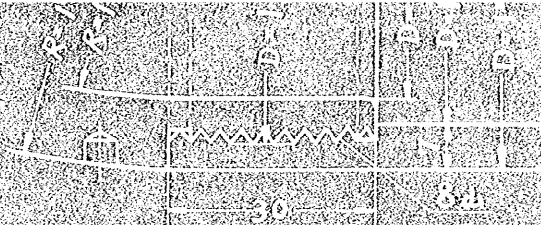
8	弾底螺塞	弾鋼製黄銅	
7	弾頭螺塞	弾鋼製黄銅	
6	弾底信管		10.000 0
5	弾頭信管		10.000 0
4	弾底信管		10.000 0
3	弾頭信管		10.000 0
2	弾底信管		10.000 0
1	弾頭信管		10.000 0
10	吊環	鋼製	10.000 0
9	支	鋼製	10.000 0
8	支	鋼製	10.000 0
7	弾底信管		10.000 0
6	弾底信管		10.000 0
5	弾底信管		10.000 0
4	弾底信管		10.000 0
3	弾底信管		10.000 0
2	弾底信管		10.000 0
1	弾底信管		10.000 0

陸軍航空本部

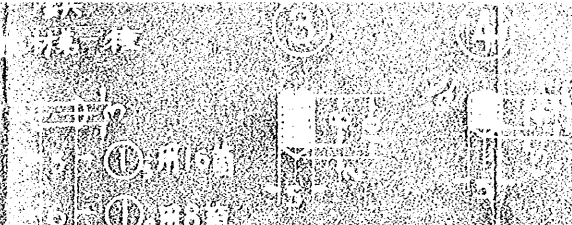
九九式三十挺機銃

陸軍航空本部

300



③

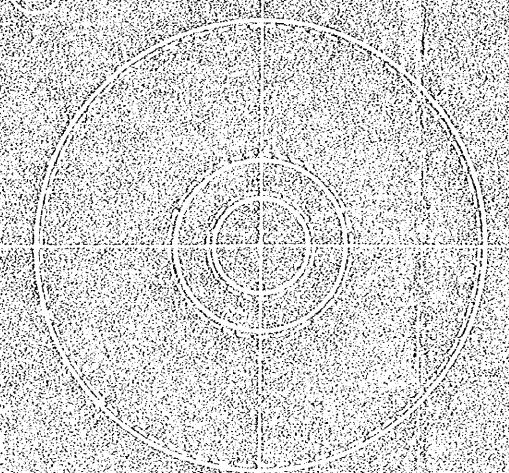


④



②

②



③

⑤



② ③